

## 会社情報 (2022年12月31日現在)

会社名 株式会社ソディック  
所在地 本社  
〒224-8522  
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号  
TEL:045-942-3111(代表)  
設立 1976年8月3日

資本金 246億18百万円  
代表者 古川 健一  
従業員数 1,087人(連結3,746人)  
連結子会社 21社  
持分法適用の関連会社 1社

## 役員 (2023年3月30日現在)

代表取締役社長	ふるかわ けんいち 古川 健一
専務取締役	つかもと ひでき 塚本 英樹
常務取締役	まえじま ひろふみ 前島 裕史
取締役	かねこ ゆうじ 金子 雄二
取締役	たかぎ けいすけ 高木 圭介
取締役	ファン ジンファ 黄 錦華
社外取締役	いなさき いちろう 稲崎 一郎*
社外取締役	くどう かずなお 工藤 和直*

社外取締役	のなみ けんぞう 野波 健蔵*
社外取締役	ごとう よしかず 後藤 芳一*
常勤監査役	ほしか あきお 保坂 昭夫
常勤監査役	かわもと ともひで 河本 朋英
社外監査役	しもじょう まさひろ 下條 正浩*
社外監査役	おおたき まり 大滝 真理*
社外監査役	こうはら ほるちか 郷原 玄哉*

\*東京証券取引所の定める独立役員であります。



# Sodick Times

2022年12月期(第47期)事業報告書  
2022年1月1日～2022年12月31日

## TOP MESSAGE

事業環境の変化に柔軟に対応し  
ものづくりを通じて  
持続可能な社会に貢献します

## ソディック ホームページ 「IR情報」のご案内

株主・投資家様向けの情報を  
開示しています。ぜひご覧ください。

<https://www.sodick.co.jp/ir/>

## コーポレートサイト



## IRサイト



株式会社 ソディック

〒224-8522  
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号  
TEL:045-942-3111

株式会社 ソディック

東証プライム:6143



事業環境の変化に柔軟に対応し  
ものづくりを通じて  
持続可能な社会に貢献します

代表取締役社長 古川 健一

株主の皆様へ

平素より格別のご高配を承り厚く御礼申し上げます。  
2022年12月期の業績ならびに事業の概況についてご報告させていただきます。  
当社グループを取り巻く環境は、世界的なインフレの進行、サプライチェーンの混乱、金融政策の引き締め、急激な為替変動に加え、ロシアのウクライナ侵攻を始めとする地政学的リスクや中国における厳格な新型コロナウイルス政策等による景気減速の懸念など不透明な状況で推移し

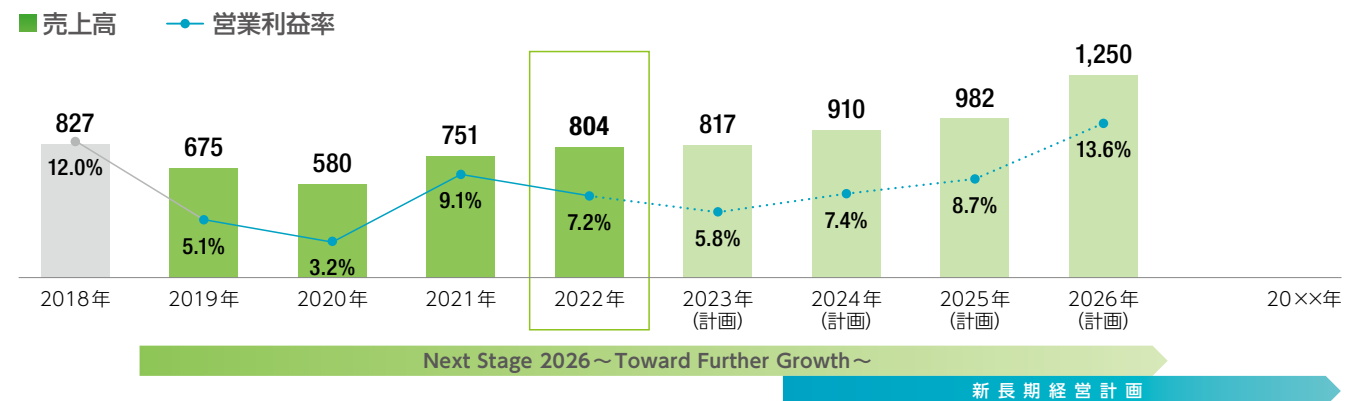
ました。  
当社では、顧客ニーズに即した新製品の開発、DXの推進等に努めましたが、為替の円安効果や材料費高騰の影響による原価高等により、当期業績は売上高804億95百万円(前年同期比7.1%増)、営業利益58億13百万円(前年同期比14.7%減)、経常利益82億75百万円(前年同期比3.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益60億21百万円(前年同期比8.6%減)となりました。

長期的な経営戦略

自動車産業の変革、IoT・AI技術の進化、5Gの普及等、ものづくりが今後も進化し続ける想定の下、2019年2月に長期経営計画「Next Stage 2026～Toward Further Growth～」を発表し、各事業において計画達成に向けてさまざまな施策を実施しています。  
一方で、計画作成時には想像もしなかった事象が次々と発生し、今後も不透明な市場環境が継続する見通しです。  
また2022年1月に実施した企業変革に伴い、組織変革に加え当社ビジネスの在り方や財務方針の見直しを実施

したほか、長期的な成長に必要な不可欠な人的資本に関しても、労働環境の改善や健康経営を進めることにより、多様な人材が成長できるような取り組みを新たに強化しています。さらに、サステナブルな社会への取り組みも重要な経営課題と位置づけ、環境マネジメントへの対応やガバナンスの強化も推進しています。  
今後の市場動向や当社グループ特有の課題も加味し、現長期経営計画のさらに未来を見据えた新長期経営計画について、2024年発表に向けて策定を進めます。

長期経営計画「Next Stage 2026～Toward Further Growth～」の進捗 (単位:億円)



株主還元をさらに強化し、株式価値の向上に努めます

最後になりましたが、株主の皆様へのさらなる利益還元が重要と考え、総還元性向の目標を「30%以上」から「40%以上」に引き上げました。配当金につきましてはDOE(株主資本配当率) 2.0%以上を目指す方針に基づき、2022年12月期

の年間配当は、27円といたしました。また、2023年12月期は2円増配の年間29円を予定しております。  
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新製品



## デジタルで変える“高速”と“エコ”が両立するものづくり ワイヤ放電加工機「AL i Groove + Edition」シリーズ

「AL i Groove + Edition」シリーズは、ワイヤ放電加工の本質である放電回路と制御の大幅な改善に取り組み、加工速度20%向上と加工精度向上の両立を実現いたしました。また、消費電力量の20%削減や、ワイヤ消費量の削減など、環境に配慮した機械です。さらに、自動化対応や操作性向上など、お客様のさまざまなご要望に応える優れた製品であり、日刊工業新聞社主催の「2022年（第65回）十大新製品賞」本賞を受賞しました。

今回で十大新製品賞は5年連続の受賞となります。これからもお客様の声に耳を傾け、進化するものづくりへ貢献できるような製品の開発に邁進してまいります。



▲「AL600G i Groove + Edition」

新製品

## 造形サイズの“大型化”と“稼働率向上”を実現 金属3Dプリンタ「LPM450」の販売開始



▲ 金属3Dプリンタ「LPM450」

「LPM450」は、従来機 OPM/LPM シリーズを使われているお客様の声を受け、「造形サイズ拡張」「多品種粉末の造形対応」「使いやすさ向上」の3つをテーマに開発いたしました。

独自開発の粉末材料を用いることにより、最大容積で従来機種比5.8倍の大型サイズの安定造形を可能にするとともに、高速高品質造形ができるよう、デュアルレーザーを標準搭載し、オプションでクワッドレーザーもそろえました。また、レーザー加工時に発生する金属蒸気の集積物（ヒューム）の回収装置により、メンテナンス頻度を従来機種の約半分に削減し、稼働率向上も実現しました。

今後、製造業において活用規模拡大が見込まれる3Dプリンタ造形市場で、当社の独自性を活かし積極的に展開していきます。

新製品

## 制御精度や利便性を高めた新機種 電動式射出成形機「MS G2」シリーズ販売開始



▲「MS G2」シリーズ

「MS G2」シリーズは、電動式射出成形機「MS」シリーズの後継モデルとして、従来機の高精度な繰り返し安定性、生産性向上、省エネ効果、IoT対応をそのまま継承しつつ、制御精度や利便性を高めた次世代の射出成形機です。独自機構「eV-LINE®システム」による可塑化やサーボモータ駆動とする方式で、安定した高精度の成形が可能となり、新コントローラーや高精度温度システムを使用し、制御精度向上と温度制御を実現しました。また、スマートフォン感覚で使える操作パネルや条件設定を容易にするための成形支援機能も搭載し、利便性も高めました。国際安全規格ISO20430（JIS B 6711）にも準拠しています。



## 「ネオマザール」が「超”モノづくり部品大賞” 機械・ロボット部品賞を受賞

調理麺製造ライン用自動麺ほぐし・調味機「ネオマザール」が、モノづくり日本会議/日刊工業新聞社主催の『第19回/2022年“超”モノづくり部品大賞』において、機械・ロボット部品賞を受賞しました。

今回の受賞は、従来手作業で行っていた調理麺製造におけるソースなどの調味液等添加・攪拌工程を無人化することで、雑菌及び異物混入のリスクを低減し、鮮度延長によるフードロス削減、省人化によるコスト削減、高度な清掃性を実現したことが評価されたものです。

今回の受賞を励みに、今後もお客様の製造ラインに最適なソリューションをトータルで提供すべく、よりよい製品の開発に邁進してまいります。

モノづくり  
部品大賞

▲ 調理麺製造ライン用自動麺ほぐし・調味機「ネオマザール」



## リアル会場が復活！世界最大級の展示会に出展しました

当社は世界四大工作機械見本市である「JIMTOF2022」（東京）及び「IMTS2022」（米国・シカゴ）、プラスチック・ゴムに関する世界最大級の見本市である「K2022」（ドイツ・デュッセルドルフ）に出展し、当社の新製品をPRしました。

数年ぶりのリアル開催となった展示会でしたが、十分な感染予防対策を講じたうえで、新製品の紹介やデモンストレーションを行いました。

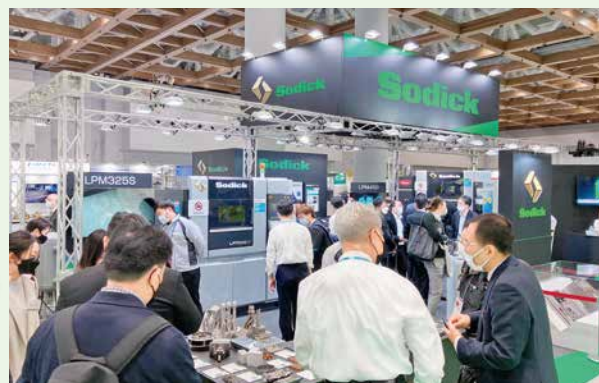
### JIMTOF2022 出展レポート



2020年のオンライン開催を経て、4年ぶりのリアル開催となった今回は、世界22か国・地域から1,086社が出展し、約11万4千人の来場者が訪れました。ソディックの出展コンセプトは、「SDGs」「DX」「スピード」を支える技術の提案です。出展物のほとんどが初出展となる新製品・新技術で、多くのお客様にご来場いただき、大好評な展示会となりました。



東展示棟のブースでは、放電加工機、マシニングセンター等を中心に新製品も含めた8機種を展示しました。



南展示棟は、金属3Dプリンタや関連技術を紹介する特別企画「Additive Manufacturing エリア」。ソディックブースでは、金属3Dプリンタの最新2機種と多数の加工サンプルを展示しました。

## 中国市場の開拓加速！ 中国華南テックセンター及び廈門新工場稼働開始

### 中国におけるアフターサービスの向上と体制を強化

このたび、中国・広東省東莞市に、技術サポート及びアフターサービスを提供する「Sodick 中国華南テックセンター」を設立し、2022年7月より本格的に稼働を開始いたしました。

近年、同地区での販売増加と既存ユーザー数の拡大に対応すべく、アフターサービスのさらなる質の向上と体制強化を目的としており、ショールーム機能、各種教育、技術サポートを担う施設としては、同地区で最大規模となります。今後は、中国におけるブランドイメージの向上とマーケットシェアのさらなる拡大を目指します。



▲ Sodick 中国華南テックセンター

### 世界的な市場競争力をさらに強化

中国の製造子会社である沙迪克（廈門）有限公司においては、産業機械事業及び食品機械事業の世界的な市場競争力のさらなる強化のため、新工場が完成し、2023年1月より稼働を開始いたしました。

新工場での生産品目は、射出成形機と食品機械で、射出成形機は月産100台の生産能力を有し、食品機械はすでに生産している製麺機に加えて米飯装置等の生産品目を追加します。

なお、新工場では、当社が取り組んでいるIoT・DXの活用による生産現場全体の最適化、「スマートファクトリー」の実現を推進し、さらなるコスト削減、納期短縮を目指します。



▲ 廈門新工場

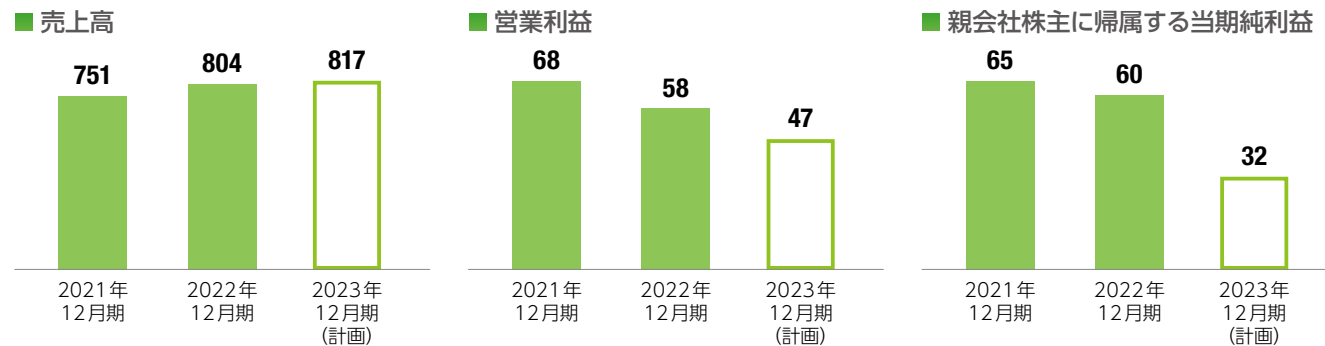


# 業績・財務ハイライト

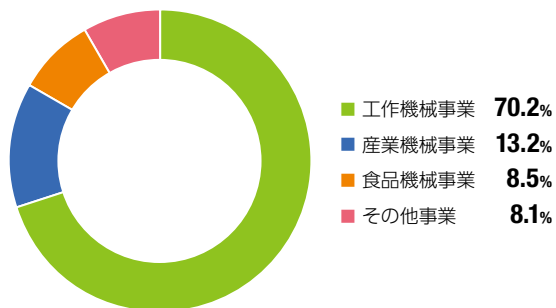
## 当期の業績について

売上高は、中華圏での工作機械及び射出成形機の販売台数が減少したものの、円安による押し上げ効果で前期比増収となりました。営業利益は、原材料・エネルギー価格の高騰、戦略的人的投資の拡大に伴う人件費の増加等により、前期を下回る結果となりました。

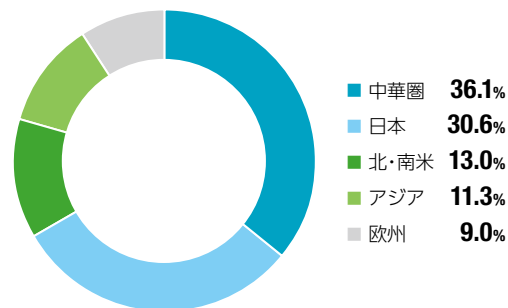
## 連結損益計算書の概要 (単位: 億円)



## セグメント別売上高構成比 (2022年12月期)

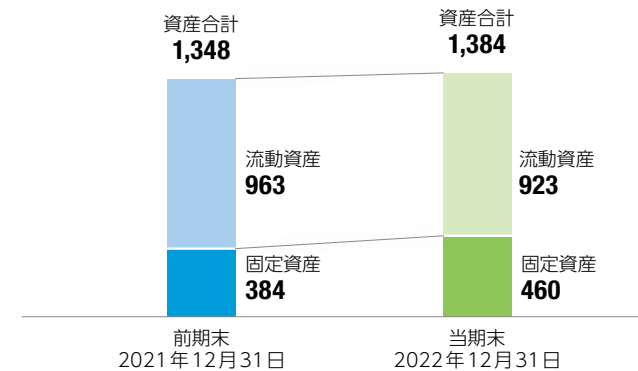


## 地域別売上高構成比 (2022年12月期)

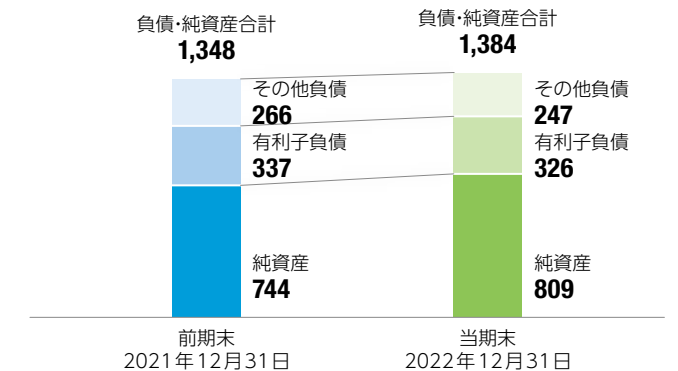


## 連結貸借対照表の概要 (単位: 億円)

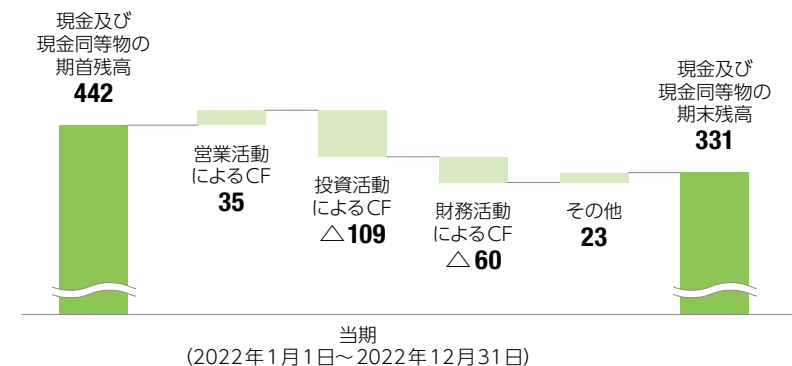
### 資産の部



### 負債・純資産の部



## 連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要 (単位: 億円)



**POINT** B/S: 資産は、円安進行に伴う為替換算調整勘定の増加により、1,384億33百万円(前期末比35億66百万円増加)となりました。

**POINT** C/F: 営業CFは、主に税金等調整前当期純利益と契約負債の増加などにより35億43百万円のプラス。投資CFは、主に定期預金の預入による支出などにより、109億57百万円のマイナス。財務CFは、主に借入金の減少と配当金の支払などにより60億12百万円のマイナス。現金及び現金同等物の期末残高は前期末比で110億70百万円減の331億58百万円となりました。

IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など詳しい決算情報をご覧いただけます

[https://www.sodick.co.jp/ir/ir\\_note.html](https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html)

ソディックIR

検索

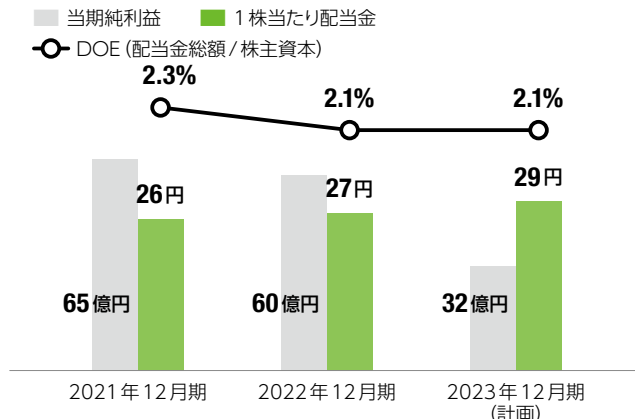


## 株主還元方針

当社では、株主還元の状況を示す指標として株主資本を基準にしたDOE(株主資本配当率)を採用しています。

持続的な成長のための研究開発や設備投資に必要な内部留保を確保しつつ、事業特性からくる業績の変動を鑑み、安定かつ継続的な配当を実施するため、DOE2.0%以上を目標として考えています。

また、総還元性向の目標を「30%以上」から「40%以上」に引き上げ、1株当たり配当金を継続的に増配することで、株主の皆様への利益還元をより高めてまいります。



## 資本政策(自己株式取得・消却の実施)

株主還元の強化及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策により、株式価値の向上を図るため、自己株式の取得及び消却を行いました。今後も、目まぐるしく変化する経営環境に対し、株式価値向上に向けた機動的な資本政策を実施してまいります。

		2022年8月9日 取締役会	2022年11月11日 取締役会
取得の概要	決議内容	取得株式数(上限)	500,000株
		取得価額の総額(上限)	500,000,000円
		取得期間	2022年8月10日～2022年9月9日
	取得結果	取得株式数(累計) (消却前発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 0.93%)	500,000株
取得価額の総額(累計)		406,599,600円	—
消却の概要	消却株式数	500,000株	取得する自己株式の全数(予定)
	消却日	2022年9月30日	2023年8月31日(予定)

## 株式情報 (2022年12月31日現在)

### 株式情報

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	57,292,239株
株主数	16,249名

### 大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,718,600	13.47
株式会社ソディック	5,018,691	8.76
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,284,600	5.73
森田 清	1,110,070	1.94
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,032,700	1.80
ソディック共栄持株会	1,008,600	1.76
有限会社ティ・エフ	895,000	1.56
株式会社三井住友銀行	850,000	1.48
古川 健一	815,101	1.42
古川 宏子	800,000	1.40

### 株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
株主確定日	● 定時株主総会、期末配当金:12月31日 ● 中間配当金:6月30日
定時株主総会	毎年3月
公告の方法 (公告掲載URL)	電子公告により行う <a href="https://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html">https://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

### 所有者別株式分布状況

